



日南病院は大切な拠点ーみんなで考える未来ー

皆さん、こんにちは。日南病院の浜田です。
私はこの病院に来て2年目になりました。今回は、
日南病院の現状や課題、そしてこれからの方向性について、
できるだけわかりやすくお話ししたいと思います。



地域医療の要としての「日南病院」

ー最後の砦を守るためにー

今、日南町は大きな転換期をおかえています。

人口は年々大きく減少し、暮らしの環境も大きく変化しています。
しかし、変わってはいけないうちにもあります。

それは「地域の皆さんが、必要な時に安心して医療を受けられること」です。

【いざという時、病院が近くにあれば…】

日南町は、東西南北約20キロ以上と広い町です。もし皆さんやご家族が急に体調をくずした時、「**遠くの病院へ行ってください**」といわれたら、どう感じるでしょうか？特に、県境近くにお住まいの方、運転がむずかしい方、まわりに頼れる方がいらっしやらない方にとっては、事実上「医療を受けられない」と同じではないでしょうか。

だからこそ、日南病院は「最後の砦(とりで)」

であり、いつでも受診でき、必要に応じてすぐに入院できる病院を守る責任があります。



【在宅医療は「病院と地域が一緒に支える医療」】

日南町では、安東良博先生が築き、高見徹先生が発展させた「病院が支える在宅医療」が長年地域に根付いています。

「訪問診療」や「往診」と聞くと、「ずっと家で診てもらおう」と思われがちですが、日南病院は「病院と在宅医療をうまく組み合わせることで、安心した暮らしができる」ことを目指しています。

たとえば、

- 体調を崩したら・・・↓ 病院で検査・治療を受け、その後、自宅に戻る。
- 一時的に家に帰りたい・・・↓ その間、医師・看護師・ホームヘルパーが自宅にかけ、患者さんとご家族を支える。
- 介護をしている家族が入院してしまつたら・・・↓ 1人では生活が難しくなつた方を、必要に応じて病棟で受け入れることも可能。



つまり、「家だけで診る」のではなく、「病院と家が一緒に支える」のが、日南病院の在宅医療の本質です。

【救急患者さんを、たらい回しにしない】

日南病院は、救急搬送の依頼を受けた際8割以上の患者さんを受け入れ、

- 緊急手術が必要な場合は ↓ 救急隊と連携し、大学病院や日野病院などへ速やかに搬送する。

- 患者さんをどこで受け入れるか ↓ 他院に直接搬送するかどうかを含めて速やかに判断する。

- 「受け入れ拒否」や「たらい回し」をしません ↓ 誠実に、責任を持って、最善の対応を行います。

こうした取り組みにより、「困ったときに頼れる病院」を目指しています。

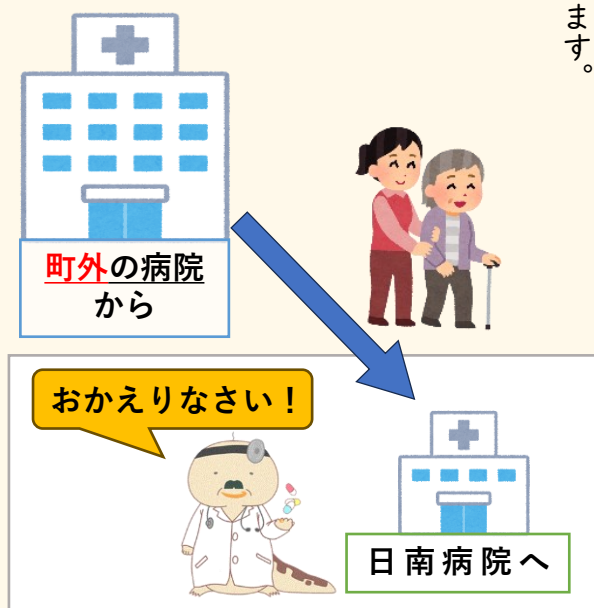
日南病院の入院医療の未来

― 地域の安心と広域連携で守る医療体制 ―

日南病院 一般病棟への入院患者数は、長年減少傾向にありましたが、2022年を境に若干増え始めています。また、長期療養を希望する方や、介護者の事情により療養が必要な方（ショートステイ）を、療養病棟に受け入れています。

国内外の統計では、人口千人あたり毎月7〜8人が入院を必要とするとされています。日南病院の医療圏では、毎月10人前後が日南病院の病棟を利用しておられ、全国平均と比べても適正な水準を保っています。

最近、日南病院では、町外で入院している方が住み慣れた地域で生活を続けられるよう、治療がひと段落した患者さんを周辺の病院と連携して受け入れる取り組みを行っています。



【入院できる病院があることの大切さ】

病院の入院体制を維持することは、健康と暮らしを保証するために不可欠です。もし入院できる病床が減ったら、私たちの暮らしはどう変わるでしょうか？

- 必要なときに十分な治療が受けられなくなる可能性があります。
- 長年続けてきた「病院が支える在宅医療」が、入院支援がないことで事実上不可能になります。
- 入院、救急患者の受け入れを制限すれば、病院経営にも大きな打撃となります。

自治体病院は、『地域の方々が必要な時に安心して利用できること』を第一に考えています。そのために、行政とも協力しながら、持続可能な医療体制を築いていく必要があります。

もし、この入院機能や救急対応を縮小すれば、地域医療を守るところか、病院そのものの存続が危うくなります。



【十年後の病院―限られた資源を最大限活かす医療へ】

現在、日南病院には99床の入院施設があります。人口が減る中で、どのくらいの病床が必要かを考えることは大切です。でも、それは医療を減らすということではなく、地域にとって本当に必要な医療を守るための見直しです。

また、病院や福祉施設を含め、患者さんを支える職員の数も減少しており、医療や介護の提供体制をどのように維持するかが大きな課題となっています。



そのため、日野郡や鳥取県西部全体で、入院医療と在宅医療のバランスを改めて検討し、「地域の実情に合った持続可能な医療体制」をつくっていくことが不可欠です。限られた医療資源を最大限に活用しながら、住民の皆さんが安心して暮らせる環境を維持するための「戦略的なダウンサイジング」が求められています。

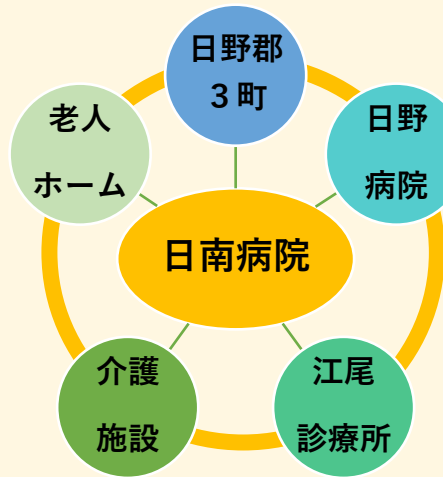
【地域の医療を日野郡全体で支える】

日南病院が入院診療を継続することこそが、地域医療を守る「最後の砦」です。

もし、この役割を失えば、住民の皆さんが「いざという時に頼れる医療」を失うことになりかねません。なぜなら、隣の日野病院も日野町と隣接する江府町を含む広い医療

圏を、日南病院と同じ規模で支えておられるためです。

皆さんが安心して医療を受けられる環境を守るためには、行政と協力しながら、日野病院や江尾診療所、介護施設、老人ホームなども密接に連携し、急性期医療を終えた患者さんの支援まで見据えた万全の体制を整えていくことが不可欠です。



日南病院の課題と未来

―地域医療をどう守るか―

ここでは、私が考える日南病院の課題と今後についてお話しします。

【新しい病院をどう進めるか】

～住民の声を大切に～

私の個人的な考えですが、ここ数年、「住民を町全体でどう支えていくか」という議論が十分に広がらず、住民サービスのひとつである病院を「住民と共に作る姿勢」を十分に持たなかったことが、長く足踏みしてきた要因のひとつかもしれません。

その結果、病院の規模や財政面の議論が先行し、住民の皆さんが本当に求めている医療のあり方についての議論が後回しになってしまったのではないだろうか。実際に住民の皆さんから私が直接お話をうかがう中で、紙やパソコンを通じた意見募集だけでは、十分に声を反映しきれないことを強く感じています。住民の皆さんとの直接対話を重ねることが、地域の実情に沿った医療のあり方を見出すために不可欠だと考えています。

これまでの「パブリックコメント」に頼った方法では、「病院や町が勝手に進めている」と受け取られ、不信感を招いてしまった面があったのかもしれない。そこに加えて、建築費の高騰や地域の暮らしの課題が山積する中で、意思決定がますます難しくなっている状況とされます。

このように、決して簡単な状況ではありませんが、皆さんの「早く進めてほしい」という声を無視することはできません。しかし、一方で「とにかく新しい病院を建てる」「こと自体が目的になってしまえば、本当に必要な医療を見失うことにもなりかねません」。



大切なのは、日南病院がどれだけの人に利用され、どのような医療が求められているのかを徹底的に分析し、それに見合った病院をつくることです。

私がここまで長々とお話をしてきたのは、まさにそのことを伝えたかったからです。

「完璧な計画ができるまで動かない」のではなく、まずは大まかな道筋を示し、住民の皆さんや周辺地域との対話を重ねながら、柔軟に計画を進めていきたいと考えています。

【患者さんとの対話や共感を大切に医療へ】

日南病院を利用される方々の多くは、職員にとって「人生の先輩」であり、大切にすべき存在です。しかし、これまでに以下のような問題が指摘されました。

- 一部の職員同士の言葉づかいが適切でなく、私語や談笑が耳についた。
- 一部の職員の患者さんへの言葉づかいが不適切で、患者さんが不快な思いをされた。
- プライバシーの確保が十分ではなく、患者さんが安心して職員と話ができない場面があった。

病院は、患者さんが人には言えない不安や悩みを抱えて訪れる場所であり、「集いの場」とは異なると考えています。中には耳が聞こえにくい方や、ご自身のことをうまく言葉にできず悩んでいる方も少なくありません。

そのような状況で、どれだけ親しみを込めた言葉をかけても、「患者さんの気持ちを理解しようとする姿勢」がなければ、信頼関係を築くことはできません。

だからこそ、患者さんが「ここなら安心できる」と思える病院を目指し、職員全員で意識を高め、改善に取り組むことが大切です。この取り組みの一環として、全職員を対象とした研修を毎年定期的に実施し、より良い医療環境を整えて参ります。



【専門科診療体制と休診時対応】

●小児科について

現在、週2回、大学から派遣された小児科医が外来診療を行っています。

7年度以降も、鳥取大学医学部附属病院と日野郡3町のご厚意で、3年間、固定された2名の非常勤医師を日野郡に派遣いただくことになりました。

また、小児科医が不在の時間帯でも、当院の内科医や総合診療医が、風邪や腹痛などに対応しています。

ただし、夜間や休日の対応が難しい場合や、一部の薬剤が手に入りにくい状況があるため、引き続き改善に向けた努力を続けていきます。



●整形外科について

来年度も、週1回、整形外科医1名による外来診療を継続します。足腰に不調を抱える患者さんが多いことは承知していますが、県全体で医師不足が深刻な状況であるため、現状の派遣体制を維持するだけでも厳しい状況です。

そのため、昨年入職した外科医を含めた2名体制で、整形外科医が不在の時間帯を補う対応を行っています。

また緊急手術が必要な大腿骨骨折や、気付かないうちに背骨が骨折していた場合、レントゲンや最新の80列マルチスライスCTを活用し、日野病院

や米子の専門科と連携して治療につなげる体制はすでに整っています。

今後は、骨のもらさが測定できる設備を整え、中高年層の骨折予防にも力を入れる予定です。

●休診時の対応について

「休診日でも、どこに相談すればいいのかわかりやすくしてほしい」という声を多くいただいています。

専門の先生が不在の日でも、常勤の医師ができる範囲で対応できることもあるはずですが、これまでのように、職員が単に「対応できません」とお伝えするのではなく、患者さんの困りごとや状況をしっかりうかがい、できる限りの対応を検討し、ご案内できるよう心がけます。

どの年齢層でも、
どのような症状でも、
安心して医療を受けられる場所

日南病院は、すべての住民の皆さんが、年齢や症状に関係なく、安心して医療を受けられる場所であり続けることを目指しています。

そのために、2025年は「地固め」の年だと考えています。

限られた人材の中で、より良い医療を提供するための基礎をしっかりと固め、住民の皆さんの本当のニーズを掘り起こしていくことが最も重要です。

【目先の収益よりも

病院の長期持続性を重視したい】

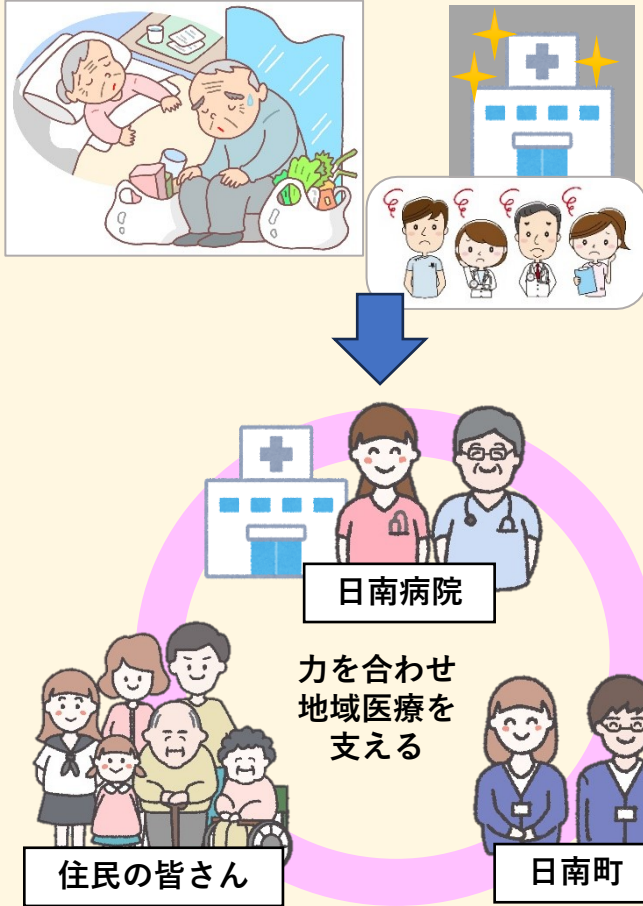
新しい診療科や専門医、設備を増やすことは、一部の方にとって魅力的に映るかもしれませんが、しかし、国内のとても厳しい医療環境の中で、「新しいことを始めれば患者数が増える」という考え方は、もはや現実的ではありません。

また、医療は患者さんの健康を守るためのものであり、患者さんに負担を強いるような経営や、利益を最優先する運営はあつてはなりません。国からも、医療機関の健全な運営が求められており、目先の利益を追い求めすぎて、結果的に急激な人材流出や業務縮小、さらには病院そのものが続けられなくなった事例も国内で数多く見られます。

大切なのは、費用対効果を考え、限られた資源の中で持続可能な医療体制を築くことです。

町の財政が圧迫され、

医療の質も低下してしまえば、「新しい病院ができたのに、満足な医療が受けられない」という事態になりかねません。それでは本末転倒です。特に、昨今の日本の行政や社会情勢を考えると、町に与えられた貴重な財源は、住民の皆さんのために最大限有効活用すべきだと強く感じています。



【さいごに

「今、私たちが目指すこと」

今、私たちが目指すべきは、「地域の実情に即した、安心して暮らせる環境を整えていくこと」ではないでしょうか。

そのためには、病院だけの努力には限界があります。住民の皆さん、行政、医療機関などが力を合わせ、地域医療を支え、次の世代へとつなげていくことが必要です。

これから、皆さんと共に、より良い医療体制の構築に向けて努力を続けて参ります。

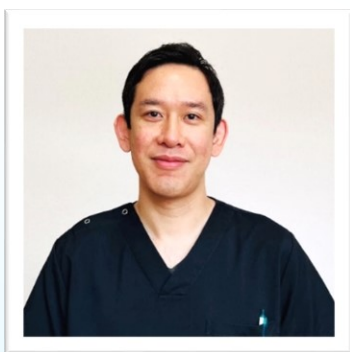
どうぞ、よろしくお願いいたします。

（表）新しい日南病院に向けた現状と課題

課題	現状	解決策
新病院計画が長期に滞っている	病院の規模や予算の議論が優先され、住民にとって本当に必要な医療の視点と分析が不足していた。	住民の受療行動を徹底的に分析し、必要な医療機能を明確にした計画を策定。
住民の意見が十分に新病院建築案に反映されていない	パブリックコメントだけでは、住民の意見が十分に反映されていないと感じる人が多い。	「意見に耳を傾けるだけ」で終わらせない。対話を重視し、共感をもって住民ニーズを医療計画にしっかり反映。
人口減少による将来の病床数の見直し	これまで病院の規模や予算を基に病床数を試算していた。	人口減少＝医療縮小ではない。将来に向けて、最適な病床・施設配置を、広域連携にて実施。
建設費の高騰と財政負担の増大	近年の物価高騰により建築費が急激に上昇し、財政的な負担が増加している。	病院の建設にはコストがかかるが、だからこそ、最も効率的で、住民の皆さんが安心できる形で進めることが大切。
医療提供体制の維持と地域連携の強化	多くの住民は病気の症状に応じて、適宜町外の医療機関を利用している。	日南病院だけではなく「地域全体で医療を守る」体制をつくる。周囲の医療機関と連携を強化し、持続可能な体制を構築。

吉田先生、澤田先生、
お世話になりました！

新転地でも頑張ってください。
ご活躍を職員一同応援しています！



よしだ りょう
吉田 諒 医師

日本内科学会
内科専門医
内科医師



サンタも似合う幹事長

このたび、3年間勤務した日南病院を退職することとなりました。在職中は、診療を通じて皆さまと関わる中で、地域のあたたかさや絆の大切さを改めて実感し、私自身も成長させていただきました。

この3年間は長いようであっという間でした。日南病院では臓器や診療科に縛られることなく、外来診療・消化管内視鏡検査・エコー検査・訪問診療など幅広く診療に当たらせていた

だきました。その中でも、循環器を研鑽している身ですので、心不全や不整脈、生活習慣病などの診療においては特に自分の強みを活かすことができたのではないかと振り返っています。

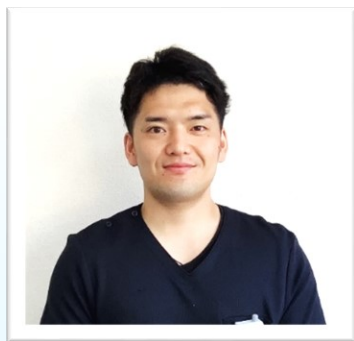
また、四季折々の日南町の美しい自然を肌を感じる事ができました。初めての冬に菅沢でスリップしたことも今となってはいい思い出です。私生活の方では、赴任当初、産まれて間もなかった長男も3歳となり、弟ができてすっかりお兄ちゃんになりました。

（患者さんの中には我が子のファンの方々がおられ、診察の合間に写真を見せびらかしてしまいました。）

今後は、日南病院で経験したことを糧にして新たな環境でより一層励んでまいります。

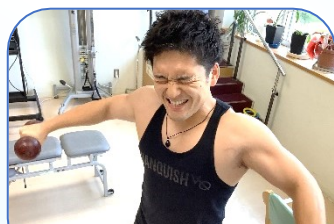
皆さまの健康をお祈りし、またお会いできる日を楽しみにしております。

本当にありがとうございました。



さわだ かおる
澤田 郁 医師

日本精神神経学会
内科医師



鍛え上げた美マッチョ

この度、日南病院における1年間の勤務を終え、新たな道へ進むこととなりました。

在職中は、日南町の地域医療に貢献することを目指し、日々診療に励んでまいりました。至らぬ点多々あったかと存じますが、患者様からの温かいご理解と励ましをいただき、無事に任期を全うすることができました。

当初は日南町の自然の豊かさ、そして厳しさに翻弄される日々でしたが、徐々に米子からの通勤にもなんとか慣れ、雪道をスリップ

しながらも事故を免れることができました。

また、医師としての経験だけでなく、猪肉や鮎、香茸の美味しい食べ方を教えていただいたり、来季の中日ドラゴンズの戦力に関してご意見をいただいたり、節酒をおすすめしたところ逆に美味しいお酒の飲み方を教えていただいたりと多方面での造形を深めることができました。

来年度からは精神科医として、鳥取大学病院で勤務させていただき運びとなりました。新たな環境でさらに研鑽を積み、皆様からいただいた経験と教訓を胸に刻みながら努力してまいります。

最後になりますが、これまでのご厚情に深く感謝申し上げますとともに、日南病院のさらなる発展と皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

令和7年4月の

【新】診療体制表

令和7年4月1日～30日		月	火	水	木	金
内 科	一診 (予約制)	平原	谷口	上平	谷口	上平
	二診 (予約制)	浜田	平原	永澤	浜田	永澤
	三診 (予約なし)	えいざわ 永澤	上平	大塚	鳥大 (第2・4) 平原 (第1・3)	谷口
	専門外来 (予約制)	浜田 (ペースメーカー チェック)		谷口 (禁煙外来)	浜田 (物忘れ外来)	門脇 (糖尿病内科) 第2・第4のみ
外 科	午 前	平岡	菅村	平岡	菅村	平岡
	午 後	菅村	菅村	鳥大	菅村	菅村
整形外科 (予約優先)						鳥大
小児科		鳥大			鳥大	
		第3火曜(PM) 鳥大小児循環器外来				
耳鼻咽喉科					鳥大	
眼 科 (予約優先)				鳥大		鳥大
皮膚科			池原			
内視鏡・エコー (予約制)			永澤	谷口		

門脇医師による糖尿病内科の診療日が令和7年4月から下記の通り変更となります。

**糖尿病内科 第2・第4金曜日
【月2回】**

受診される皆さまにはご不便をお掛けしますが、
よろしくお願いします。

鳥取大学医学部附属病院から2名の
小児科医師 (固定) が派遣されます。

派遣に伴い月・木曜日の
小児科の診療が9:30開始
となります。

お急ぎの方は小児科へご相談ください。

巡回診療 4月16日(水)受付時間:14時～15時30分 つるぎ会館(上萩山) 診察のない方もぜひお越しください

- ・診療 9:00～12:00(開扉7:30、受付8:00～11:30)
- ・整形外科、眼科は予約優先になっていますので、当日受診希望の方は、来院前に電話をお願いします。
- ・発熱やかぜ症状、嘔吐等がある方は必ず事前に電話でご相談ください。
- ・感染症対策のため病棟への面会は予約制(事前に主治医の許可が必要)です。オンライン面会などの方法がありますので、ご希望の方は病院看護師に電話でご相談ください。
- ・小児科の診療がない曜日(平日時間内)でも、内科3診にて受診が可能です。まずはお電話でご相談ください。

診療の予約・変更の電話は

午後2時～5時の間をお願いします



※病院だより53号と一緒にお配りした看護師資格取得資金貸与制度(奨学金)のご案内に一部誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

【誤】貸与額:最高4年420万円 → 【正】貸与額:最高4年240万円

令和7年度の予防接種が始まります！

予約制

① 带状疱疹予防接種のお知らせ



午前(AM)

実施日 月～金曜日 (当日、診察がある方のみ)

※体調不良で受診された方は、接種できませんのでご了承ください。

午後(PM)

実施日 月～金曜日

接種時間 15時～15時45分

◆予防効果の違いから、日南病院では带状疱疹の予防に高い効果がある組み換えワクチン(シングリックス)を推奨しています。

生ワクチンに比べて、予防効果が長く続くことが特徴です。

◆午前・午後ともに**予約制**です。**予約**の電話は【0859-82-1235】

※詳しくは町報にちなん4月号をご覧ください。

前日、
16時00分までに
ご予約ください。

予約制

② 肺炎球菌予防接種のお知らせ

助成券は
65歳に
なる方へ！

午前(AM)

実施日 月～金曜日 (当日、診察がある方のみ)

※体調不良で受診された方は、接種できませんのでご了承ください。

午後(PM)

実施日 月～金曜日

接種時間 14時～

◆**助成対象者**は今年度**65歳になる方のみ**、助成券が届きます。

◆助成券は**誕生日以降**でないとい使用できません。

◆午前・午後ともに**予約制**です。**予約**の電話は【0859-82-1235】

◆65歳以外の方も任意での接種が可能です。(任意接種：8,000～10,300円)

前日、
16時00分までに
ご予約ください。

2つの
予防接種で
共通のお知らせ



1. 診察券
2. 助成券
3. 予診票

※お手元に予診票が
届いている方のみ

【注意事項】

◆**接種後30分**は、院内で待機
していただきます。



日南町国民健康保険

日南病院

〒689-5211

鳥取県日野郡日南町生山511-7

TEL : 0859-82-1235

FAX : 0859-82-1341

HP : <https://nichinan-hospital.jp/>



病院に対するご意見
ご要望、広報誌に対す
るご意見など、お待ち
しています。

入力フォーム

